





真宗文庫

---

# 暮らしのなかの仏教語

大江憲成



---

東本願寺出版

も  
く  
じ

①	退屈	たいくつ	.....	9
②	出世	しゅっせ	.....	14
③	我慢	がまん	.....	19
④	分別	ぶんべつ	.....	24
⑤	微妙	みみょう	.....	29
⑥	無学	むがく	.....	34
⑦	他力	たうりき	.....	39
⑧	不退転	ふたいてん	.....	44

30	有為	うい	.....	154
29	極楽	ごくらく	.....	149
28	外道	げどう	.....	144
27	世間	せけん	.....	139
26	善哉	ぜんざい	.....	134
25	地獄	じごく	.....	129
24	餓鬼	がき	.....	124
23	畜生	ちくしょう	.....	119
22	真実	しんじつ	.....	114
21	魔	ま	.....	109
20	方便	ほうべん	.....	104
19	歡喜	かんぎ	.....	99
18	遊戯	ゆげ	.....	94
17	莊嚴	しょうごん	.....	89
16	凡夫	ぼんぷ	.....	84
15	お彼岸	おひがん	.....	79
14	悲願	ひがん	.....	74
13	流通	るづう	.....	69
12	阿修羅	あしゅら	.....	64
11	有り難う	ありがとう	.....	59
10	唯我独尊	ゆいがどくそん	.....	54
9	有頂天	うちようてん	.....	49

索引	.....	253
あ	.....	250
あ	.....	250
あとがき	.....	253
往生	おうじょう	244
人間	にんげん	239
実際	じっさい	234
無上	むじょう	229
自然	じねん	224
因縁	いんねん	219
愚痴	ぐち	214
一味	いちみ	209
自業自得	じごうじどく	204
平等	びょうどう	199
世界	せかい	194
三昧	さんまい	189
意地	いじ	184
流転	るてん	179
煩惱	ぼんのう	174
四苦八苦	しくはっく	169
迷惑	めいわく	164
縁起	えんぎ	159



①  
退屈

たい  
くつ

凡例

・本文中の『真宗聖典』とは、東本願寺出版発行  
のものを指します。

「毎日が何となく過ぎていき、暇だなあ、何かおもしろいことないかな〜って思ってしまうんです。だけど、かといって、とくに何かしたいことがあるわけでもないんです。退屈たいくつなんです」。

退屈…。時間をもてあましている。

このように日常でよく使われる「退屈」という言葉は、時間をもてあまし、暇で何もすることも見当たらず、飽き飽きしているということです。

ところが、この「退屈」という言葉は、本来は仏教語なのです。仏さまの教えのなかで大切にされてきた言葉なのです。ご存知でしたか？

仏教語は、大変長い歴史のなかで民衆に親しまれ使われ続けてまいりました。そしていつしか暮らしのなかに埋もれてしまって、

言葉のもつ意味が変質してしまっていることがよくあるのです。

しかし、ちょっと本来の意味をたどってみると、たいへん重要なメッセージに出会うのです。

退屈の「退」は退き、後戻りすること。退屈の「屈」はかがみ込み、屈してしまうこと。で、「退屈」とは、仏道の修行に「屈」し、仏道の歩みが「退」いて失われることなのです。

私たちは、仏道を歩むことで人生を丁寧ていねいに生きていこうとします。ところが、自分の力の限界を感じたり、先が見えなくなったりすると、「もういいや」と諦あきらめて、歩みを止めてしまいます。

生きるなかで、壁にぶつかって屈して後戻りしてしまったり歩めなくなる。人生の危機ですね。

本来、退屈とはそういう人間の挫折の姿が言い当てられている



言葉なのです。

暇という意味ではないのです。努力しようとするほど、未来に期待すればするほど、挫折は大きいのです。

しかし、「退屈」してしまつて歩みを止めるわけにはいきません。「退屈」は乗り越えなくてはなりません。

でも乗り越えると言つても、自分一人では限界があります。自分の能力や努力に挫折したのですから、それを超える道は自分のなかにあるはずありません。

そこで、「退屈」を乗り越えるには「師」や「友」の存在が大切であると仏教では教えています。先生の言葉や生き方、そして友だちの姿、それが退屈を乗り越える智慧と勇気を与えてくれるのです。

挫折して落ち込んでしまった私に、「そこが発点なんだよ。そこをはずして未来はないよ。あなたは今、借り物でない自分自身を生きようとしているんだよ」。

かつて、その一言で、私はさらに歩みを起こしたことが忘れられません。

挫折をとおして問いが生まれます。その問いがこの私を育ててくれるのです。だから私は歩めます。生きていきます。

「退屈」とは、私たち人間に乗り越えるべき人生の課題を教えてください。私たちが乗っている仏教語なのです。